

「時代がすすむにつれ徐々に変わってきた男女共同参画」

みつ2020 鈴木清美

「夫は外で働き」「妻は家庭を守る」という性別による固定観念は、昭和から平成、平成から令和になり、時代がすすむにつれ徐々に変わってきていると感じます。

近年、共働き世帯が多く、女性は仕事をしながら、家事・育児と多くのことに追われています。そのなかでも、近年の若い世代は、仕事をしながら、家庭も大事にしたいと思う男性も多く、仕事・家事・育児とやれる事を率先してやっている男性が増えてきています。これは、日本人に限らず日本に住んでいる外国人の男性も同様です。休日の日には、子育て支援センターや図書館、公園に父子で行き、妻は、ショッピングや家でゆっくり過ごしてもらっていると。また、子供が急に体調が悪く、保育園、幼稚園、小学校を休むことになっても妻ばかりが仕事を休むのではなく、夫が休みを取り子供と一緒に過ごす。また、妻の出産後の育児を夫婦で一緒にやりたいと育児休暇を取る男性もいます。妻のやりたい仕事を応援しようと思う男性もいます。

しかし、そう思っても職場の環境がそうでなければ参画出来ません。

主人の勤務先に、部署は違いますがご夫婦で同じ職場で働いている方がみえます。定時になると、ご主人が保育園にお迎えに行かれます。少し前の時代だと「嫁がおるだろう」「嫁の仕事だろう」みたいに言う上司もみえました。私は主人に「そっかあ～。そっかあ～。早くお迎えに行ったら～気を付けて帰れよ～」と、気持ち良く言ってあげなあかんよ～!!と、主人に言うと、主人なりに気持ちの変化が出てきています。

職場の理解と夫婦で互いに協力し、固定的な役割分担意識にとらわれず男女が様々な活動が出来るように社会の制度や慣行の在り方を考える必要もあると思います。

定年退職された男性も今まで奥さん任せで何もやらなかったのに、これを機に、ゴミ出し、食事作り、洗濯、掃除など、すすんでやられています。ダメ出しを奥さんから言われながらも楽しんでみえる御主人。時には、男性の為のお料理教室に参加されている方もみえます。妻に食べてもらいたい。妻が喜んでくれるからと、男性は嬉しそうです。これも時代とともに少しずつ変わってきていると思います。

小中学生の子ども達も男女共同参画をテーマにした標語作品また人権を考えるテーマでも、ポスター、書道、標語、作文、この作品からも子供達からの男女共同参画意識が伝わってきます。

警察官、消防士、医師、保育士、校長先生、教頭先生、議員、生徒会会長、応援団長、野球、サッカーなどなど。「男だから」「女だから」の性別に関係なく、対等に自分らしく、その人らしく、やりたい人がやればいい。男性も女性も一人の人間として能力を発揮して、個性を生かし性別を問わない多様性を高め、男女とも一人一人の個性を引き出せる。そうする事で、更なる成長に期待できそう。楽しみです。

人と人とは支え合い、そして何より互いに感謝の気持ちを思うことはすごく大事だと思います。

《ウィルあいち交流ネットセミナー「^{ひとごと}他人事じゃない女性の貧困 一緒に考えてみませんか」を開催しました》

2022年2月27日(日)、愛知大学教授 櫻村愛子氏をお招きし、コロナ禍における女性の貧困をテーマに、さまざまな角度から現状が抱える問題についてお話しいただきました。ご参加いただきました皆様、誠にありがとうございました。



▼ウィルあいち交流ネット参加グループ

さわらび会 / メンズリブ名古屋 / 女性学'98の会 / グループキーツ / ウィル 2000 / IWL / ウィル Do 2002
サーティネット'05 / ベリーズ 18 / Step S07 / Fem.'09 / Amelie '10 / ひかるよ '15 / カクラカクラ '16
そだね! 2017 / Hey Say Final / Reiwa '19 / みつ 2020

編集発行 ウィルあいち交流ネット
協力 (公財) あいち男女共同参画財団
2022年3月31日発行

ウィルあいち交流ネットとは：
ウィルあいちセミナー等の受講修生による
自主活動グループで組織された団体です。